

令和6年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会会議録

令和6年12月12日(木)

グリーンカレッジホール

【開 会】14時00分

(事務局)	本日はお忙しい中、ご出席くださいますこと誠にありがとうございます。 ただいまより、令和6年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは議題に入る前に、資料の確認をさせていただきます。 資料1「令和6年度板橋グリーンカレッジ公開講座について」 資料2「令和6年度前期板橋グリーンカレッジアンケート集計結果」 資料3「板橋グリーンカレッジCI・DX推進について」 資料4「令和7年度板橋グリーンカレッジ受講生募集について」 資料5「令和7年度板橋グリーンカレッジ講義概要（前期）」 資料6「新たな板橋グリーンカレッジ大学院のカリキュラム案について」 もし不足等ありましたら事務局までお知らせ願います。よろしいでしょうか。会議録を作成させていただき関係から、議事の内容を録音させていただきますので、どうぞご了承のほどよろしくお願いいたします。 本日は、令和6年度板橋グリーンカレッジ運営協議会の第2回目となりますが、前回ご欠席の委員の方もいらっしゃいましたので、改めまして私のほうからご紹介をさせていただければと思います。本協議会は運営協議会運営要綱第3条に基づきまして、区内の大学関係者、学識経験者、区民の代表、板橋グリーンカレッジOB会の代表、区職員の合計8名で構成しております。 ～委員紹介～ ただいまより、令和6年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会いたします。それでは、早速議事に移りたいと思います。議事進行につきましては、議長の不在に伴い、副議長よりよろしくお願いいたします。
(副議長)	本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 ただいまより、令和6年第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開催いたします。今日議長さんがちょっと遅れているようなので、代わってやらさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 はじめに、本協議会運営要綱第6条第2項により、定数半数以上となっておりますが、本日は7名の委員の出席がございますので、有効に成立しているということを申し上げます。また、本日傍聴される方はいませんので、あわせてご報告いたします。お手元に配付しております、次第にしたがって議事を進めてまいります。資料1「令和6年度板橋グリーンカレッジ公開講座」

	につきましての報告を事務局よりお願いいたします。
(事務局)	それでは、まず資料 1 をご覧いただきたいと存じます。令和 6 年度板橋グリーンカレッジ公開講座についてご報告させていただきます。令和 6 年度から多世代化した板橋グリーンカレッジの周知を図ることを目的に、板橋グリーンカレッジ公開講座を実施いたしました。昨年度までは、板橋グリーンカレッジオープンキャンパスという形で実施をしていたところでございます。今年度につきましては、社会教育や生涯学習の支援として、またメディア企業の社会貢献活動として無料で講座を提供しております「出前講座」を利用いたしまして、「ニュース番組の舞台裏」をテーマに講義を実施したところでございます。募集定員は、100 名でございましたけれども、86 名の方からご応募いただきました。内訳といたしまして、60 歳未満の方が 15 名、60 歳以上の方が 71 名といったところでございました。当日ご参加いただいた方が 62 名というかたちとなつてございます。アンケート結果につきましては、2 枚目をご覧いただきたいと存じます。満足度について聞いたところ、回答者の皆様、とても満足、概ね満足といったような結果となつたところでございます。日々放送されているテレビのニュース番組につきまして、どのようにニュース項目を選び、取材現場ではどのような工夫をしているのか。現場の様子や経験を交えたお話をしていただきまして、皆様から大変ご好評いただいたところでございます。今後受講してみたい内容等、いただいたご意見を活かしまして、引き続き公開講座の実施を進めて参りたいというふうに考えているところでございます。説明は以上でございます。
(副議長)	資料 1 の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。
(委員)	意見じゃないですが、これはいつ行われたのですか。日付が入ってないので。
(事務局)	10 月 6 日になります。
(事務局)	申し訳ございません。大変失礼いたしました。
(副議長)	よろしいですか。私はちょっと皆さんにお断りしておきます。急遽議長の代わりをやらせていただきますので、どうぞご了承いただきたいと思います。 続きまして、資料 2 「令和 6 年度前期板橋グリーンカレッジアンケート集計結果」について、説明を事務局からお願いいたします。
(事務局)	それでは、引き続きまして、資料 2 をご覧いただきたいと存じます。 令和 6 年度前期板橋グリーンカレッジアンケート集計結果についてご報告をさせていただきます。グリーンカレッジでは、1 年生及び専門課程の前期

日程終了時に、半期分のアンケートをいただいております。資料はその結果をまとめたものとなっております。まず、1年生のアンケート結果につきましてご説明をさせていただきます。1ページ目をご覧ください。設問1では、受講した目的について質問しております。選択肢①「学習意欲を満たすため」、「③日々を有意義に過ごすため」の順に多く、その結果といたしまして、設問2「受講して得られたことについて」では、「①知識を得ることができた」、「③生活のリズムや充実感がうまれた」という意見が多く、学習意欲や日々の充実感等の満足度は高い結果となったところでございます。続きまして、2ページ目をご覧ください。設問4でございますけれども、こちらでは年代、設問5ではご職業について質問しております。年齢制限をなくしたことによりまして、50代以下の方もいらっしゃる、属性といたしましては、専業主婦の方、パートアルバイトの方が多くいらっしゃるということがわかったところでございます。平日の日中の講義が多いため、会社員の方、学生さん等は少ない結果というような形になってございます。2ページ目から6ページ目につきましては、設問6で各講義の満足度についてご質問をさせていただきます。どの講義も概ね大多数の方にご満足いただいた結果となっております。また、6ページ目でございますけれども、設問7で今後受講したい分野について質問してございます。健康、心理学、芸術、この3点が特に多い結果となっております。各講義の満足度と受講したい分野につきまして、いただいたご意見をもとに今後の講義内容を精査してまいりたいと考えてございます。7ページ目から8ページ目にかけては、グリーンカレッジに関するご意見、ご要望をいただいております。講義日程や時間体、申請方法など、運用面でいただいたご意見が多く、今後改善できるよう検討してまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、専門課程のアンケート結果でございます。9ページから11ページにつきましては、文化文学コース、12ページから14ページにつきましては、社会生活コース、15ページから17ページ目につきましては、健康福祉コースとなっているところでございます。どのコースにつきましても、設問1「受講して得られたこと」につきまして、1年生と同様に「①知識を得ることができた」、「③生活のリズムや充実感がうまれた」が多くいらっしゃったところでございます。設問2につきましては、各講義の満足度について質問してございまして、どの講義も概ね大多数の方にご満足いただいた結果となっているところでございます。設問3につきましては、今後受講したい分野について質問をさせていただきます。どのコースも、歴史が一番人気の高く、次いで芸術、板橋学、健康といったようなものに、人気が高い結果となっております。設問4につきましては、グリーンカレッジに関するご意見、ご要望でございます。講義日程や教室環境等でいただいたご意見につきまして、今後改善できるように検討を進めてまいりたいと考えております。大学校下半期のアンケートにつきましては、後期日程終了後に実施する予定

	でございます。大学院につきましては、1年間の日程終了後にアンケートを実施する予定でございます。雑駁ですけれども、資料2の説明は以上となります。
(副議長)	ありがとうございました。多岐にわたるアンケートの結果でございますけれども、資料2の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。
(委員)	ありがとうございます。私はつい先日、心理学の講座を聴講させていただきました。ご意見ご要望等にもありましたように休憩がなかったですね。1時間半ずっと休憩がなかったので、途中で退席される方もいらっしゃいました。やっぱり皆慣れない教室とかということで、ちょっと5分ぐらい休憩があると、お手洗い休憩とか、外に出て違う空気を吸うとか、それぐらいの時間はあってもいいかなと思いました。それで、講義時間が10時から12時と理解していましたが、11時半で終わったので、心理学は11時半だったのでしょうか。すみません、確認したいのですが。
(事務局)	11時半まででした。
(委員)	ありがとうございます。とてもためになったので、聴講生の皆さん結構座っていらっしゃいまして、私は一番後ろに座っていたので、かなりよく聴講生の皆さん、よくわかるなっていう感じでした。先生のお話もとてもよくて、ご自分の体験をもとに、やっぱりいろんなストレスがあるとか、それを乗り越えた方法とか、あと、ヨガなんかもやってらっしゃるということで、そんなストレスの発散の仕方とかあるっていうことがわかり、今の社会はストレスがないってことは全くないですよ。ストレスがないっていう人が、ストレスらしいです。そういうこともあったので、引き続き心理学とかそういった精神とか神経とかってどうしても、生きている間つきまとうっていうか、どうしても乗り越えていかなきゃならないことがあると思います。職場とか人間関係とか。だからこういった講座って、引き続き私は続けていただきたいなと思いますね。講師を変えるのではなく、同じ先生の中で、テーマを変えていただいて、引き続き長くやっていただけるとありがたいなと思いました。
(事務局)	ありがとうございました。まず、心理学のところでの話でございましたけれども、休憩についてのご提案がございました。こちらにつきましては、先生方とご相談をさせていただきながら、進行の状況を考えていきたいと思っています。また、心理学の講義を続けていただきたいというようなお話をいただきました。この点につきましては、様々な方のアンケート結果なども踏まえまして、科目につきましては引き続き検討をさせていただきたい

	といているところでございます。
(副議長)	他にございませんか。
(委員)	まず、このアンケートの作り方ですけれども、講師の方々の名前が書いてありますが、テーマが書いていないですよね。テーマが書いていないと何の話をしたのか全然わからないので、それは入れてください。それから、アンケートの中の、やや不満及び不満の方々は、合わせても大体2、3%、多くても6%ぐらいですけれども、6ページに出ている11番の講座は14.9%と突出しています。これはなぜだったのかなあという点と、こういうのに対して、事務局の方々のほうでは、どう分析されて今後どういうふうにしていこうと考えておられるかなというあたりを教えてください。
(事務局)	ありがとうございます。まず、テーマが入っていないというところでご指摘いただきましたので、今後の資料の作り方につきましては検討をさせていただきたいと思ってございます。申し訳ございませんでした。 それから、不満が3%といったところで、ここにつきましては皆さんもご満足をいただいていた方が多かったのかなと考えているところがございます。プログラミングのところで、やや不満と不満が多かったというご指摘をいただいております。ここにつきましては、職員の方からご回答をさせていただきたいと思います。
(事務局)	プログラミングは今回初めて取り入れた科目です。東京都ですとか、北区のほうで子供たちを対象に、プログラミングをわかりやすく教えるっていうことでやっている先生に登壇いただきました。前段では、情報ネットワークのいわゆるインターネットとか、どういうふうに繋がっているのかというネットワーク図とか、そういう専門的な話に入ってからプログラミングの話になるのですけれども、結構プログラミングって二進法とか出てきて、割と好きな人はすごくはまりますが、全く触れたことない人にとってはどうしても難しく感じてしまったのではないかなという印象があります。我々としては、プログラミングをやるっていうこと自体、1つの賭けではあった部分ですが、本当に初学者の方にわかりやすく説明いただくためにどういうふうな内容がいいのかなっていうところをすり合わせたほうがいいかなと思っています。ただ、一方で満足度が高い人は高かったところがあるので、結構振り幅が大きい講義だったと認識しております。貴重な意見ありがとうございます。
(委員)	今のご説明でよくわかりまして、不満・やや不満の方々が、理解に追いついていけなかったのではないかっていうふうな感じですよ。その一方で、満足・大変満足は、これ圧倒的にもう50%超えているわけです。どこをねらい、ターゲットにするかが難しいと思いますね。初歩段階の方をターゲット

	にしたら、それを過ぎている方にとっては全く面白くない、つまらないものになってしまう。その逆にしたら、ついていけない人が増えちゃうという。これは永遠の課題だと思います。ねらうターゲットについて、初歩の講座と中級講座と分けるとかですね、または、もっと細分化したテーマにして、場合によっては、ここはもうスキップして帰ってしまってもいいですみたいなね。そんなやり方もあるかもしれないので、なかなか実施部隊として難しいところだと思います。どこかで線引きというか、何かしないとこのままクラスの中でも、3分の2は何とかついてったけど、3分の1は落ちこぼれていくような、そういうことになっちゃうと思いますので、今後この辺での改善を期待しております。
(事務局)	ありがとうございます。いただいた意見は大変貴重だなと思います。私どもとしても初めての試みで、皆さん全くレベルが違う中での取り入れた講義だったものですから、やはりこういう結果になったということで、レベルが本当に難しいですね。今、申し出を受けて、そういった枠組みを考えていきたいなと思っています。1つ補足としましては、1年生の講義でやったものですが、2年生でもプログラミングを実施する予定があります。後程、講義概要で出てきますけども、同じ先生にやっていただきますが、レベルが高いものに合わせて実施します。今回は、プログラミング自体がインターネットの環境がないとなかなか教えるにくいという部分がありますので、実際のタブレットとか、スマートフォンとかそういったものを持ち込んで、踏み込んだ講義をしていくので、意識の高い層、またはある程度レベルについていけそうな層が拾えるかなと思いますので、アンケート結果を注視して、今後また組んでいきたいなと思います。貴重な意見ありがとうございます。
(委員)	よろしくお願いします。
(副議長)	よろしいでしょうか。それでは続きまして、資料3の説明をお願いいたします。
(事務局)	引き続きまして、資料3の説明をさせていただきたいと思います。 板橋グリーンカレッジ、CI・DX推進についてご説明をさせていただきます。 まず、CI戦略でございますけれども、コーポレートアイデンティティの略でございまして、組織の特性や独自性をイメージ・デザインで発信し、統一した組織イメージを伝えるための戦略でございます。また、DXでございますけれども、デジタルトランスフォーメーションの略でございまして、デジタル技術が、すべての人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させるコンセプトのことを言うものでございます。板橋グリーンカレッジ事業につきましては、多世代化に伴いまして、①カリキュラムの再編成、②CI戦略によるブランド化、③DX推進を3つの柱といたしまして、時代に適した学びの実現

に向けて、様々な改革を進めているというところでございます。

まず、CI 戦略でございますけれども、オフィシャルロゴを作成のご報告をさせていただきたいと思っております。受講生同士の一体感を高めまして、板橋グリーンカレッジ事業の機運醸成とブランド力の向上を図るため、オフィシャルロゴを作成いたしまして、この後、関連アイテムを作成していきたいというふうに考えてございます。令和7年度の受講生から配布の方を始めまして、事業に関連する印刷物や、広報物にも広く活用していきたいというふうに考えているところでございます。作成アイテムにつきましては、記載の通りでございます。現在、このグリーンカレッジを指定管理者の方に運営をお願いしているところでございますけれども、こちらの職員の方の制服でございます。こちらが写真に載っているものでございます。色としまして、モスグリーンの色ベストを予定しているところでございます。また、卒業レポートにつきましては、令和7年度より順次電子化をしていきたいと考えているところでございます。今まで手書きで冊子のほうで配付という形を行ってございましたけれども、こちらのほう冊子での配付ではなく、ホームページなどでデータ公開をしていきたいと考えているところでございます。なお一部は閲覧用といたしまして、図書館等に冊子配付は継続していきたいと思っております。スケジュールにつきましては、現在各種アイテムの製作を進めているところでございまして、4月の開校のところから、順次、受講生の皆様にお配りをできればと思っております。

続きまして、DXの推進でございます。板橋グリーンカレッジ専用ポータルサイトを導入する予定でございます。多世代化した受講生の多種多様なニーズにこたえていくため、板橋グリーンカレッジ専用のポータルサイトを作りたいというふうに考えております。受講生の利便性の向上や、デジタルデバインド（情報格差）でございますけれども、こちらの解消につなげることを目的にしたいというふうに考えてございます。詳細につきましては、3ページ目をご覧くださいと存じます。現在のグリーンカレッジ業務の流れについて、簡単にご説明させていただきたいと思っております。現在につきましては、申し込みから問い合わせ対応、休校などの情報発信、出欠などの受講生管理につきまして、紙での作業がほとんどという状況になってございます。非常に手間がかかっている状況でございまして、課題として、申し込み処理につきまして、受講生ははがき、電子申請で申し込みをされた後、はがき申し込みの入力作業、名簿の作成を手入力で行っているところでございまして、結果の通知につきましても郵送でお送りをしているというようなところで、受講生の皆様に届くまでに大変お時間を頂戴しているというところがございます。課題の2点目として、問い合わせ対応につきまして、電話での問い合わせがほとんどのため、担当者不在時に対応ができないというような状況が発生しているということ、解釈にずれが生じてしまうというようなことも、ごくたまに起こっているというような状況でございます。課題の3点目でございます。情報発信につきましては、公開講座などのお知らせはチラシで配

	布をしております、自然災害等による臨時休校の場合には、おひとりおひとりに職員の方から電話をかけさせていただいて、電話が繋がるまではご連絡を続けさせていただいているというような状況でございます、繋がらない方にお伝えができないというような状況も発生しているというところでございます。課題の4点目でございます。受講生の管理のことですけれども、受付の際に、出欠を紙の受講証に判子を押印し管理しているため、受付で並んでいただいている時間がかかってしまっているというような状況でございます。アンケート等も紙で回答をいただいているため、集計作業等にも非常に時間がかかっているというような状況でございます。 続きまして、4ページ目をご覧いただきたいと存じます。ポータルサイト導入後の業務の流れについてです。事務局では、受講生の管理や情報発信、問い合わせの対応など、紙や電話で行っていたところを、ポータルサイト上で管理していきたいと考えてございます。受講生につきましては、ポータルサイトを利用させていただいて、権限をつけさせていただきますので、ご自身のID・パスワードでログインをしていただき、受講生独自の情報がカスタマイズされたマイページを見ることができます。また、問い合わせなどにつきましても、サイト上から連絡をすることができるというような形になります。新しい学習フォローとして、講義のアーカイブ動画の配信ですとか、資料の電子化といったものも進めていきたいと思っているところでございます。現在、欠席をされた講義につきましては、資料をお渡しして終わりというような形になってございますけれども、講義を録画し動画配信をしていくということで、受講生が欠席された場合には、講義のアーカイブ動画を見ることができるというような形になるものでございます。今後、多世代化していくにあたりまして、電子手続きのほうが、当たり前のような状況にだんだんとなってくると思います。そういう世代の受講生もこれから増えていくと考えておりますので、ポータルサイトを導入し、受講生の利便性の向上を図るとともに、システムに不慣れな受講生の方につきましては、積極的に活用を促すことで、デジタルデバイド（情報格差）の解消にもつなげていきたいと考えているところでございます。スケジュールといたしましては、申し訳ございません、資料上は令和7年度の6月からと記載してございますが、誤植でございます、令和7年の9月からシステムを構築いたしまして、令和8年度の受講生からサイトのご利用をいただきたいと考えているところでございます。誤植がございまして、大変申し訳ございませんでした。雑駁でございますけれども、説明につきましては以上でございます。
(副議長)	ありがとうございました。ご質問、ご意見はございますか。
(委員)	DX推進は誠に結構ですけれども、個人情報漏えいとか、そのようなことにはくれぐれもお気をつけいただきたいなと思っています。今、結構流れちゃったりとか漏えいをされたりとかして結構不信感とかあるから、やっぱり紙

	の安全とか、振込みなんかも通帳から取り込んだほうが安全とかってふうにだんだんなっている人もいますよね。マイナンバーカードが個人情報の漏えいになっているから、保険証と紐づけしないとイケないと言っても怖いから嫌って言っている人もいますよね。個人情報の外部に漏えいするっていうことを、しっかり対策を並行してやっていかないと信頼を失墜することになると思いますので、それはぜひやっていただきたいと思います。
(事務局)	ありがとうございます。個人情報につきましては、区としても最重要課題と認識しているところでございます。これから業者等、決めていくような状況になりますけれども、個人情報も最重要検討項目という形で選定をしたいと思っていますところでございます。
(副議長)	他にございませんか。
(委員)	このポータルサイト、大変結構だと思います。いろんな形で便利に使えて、やってみると本当にレスポンスが早くていいなという。いちいち紙でもらうよりもずっとハンドリングしやすいと思う。特に、4ページに書いてある中で注目したのは、欠席フォローの下のところに講師への質問ができるように書いてある。これは大変画期的なことだと思っています、これまでの授業では、1時間半たっても数分すぎることもあってざらでしてね。そうすると質問の時間がないですね。それに対して、講師への質問が新たに採用されると、答える先生も大変だとは思いますが、そこそこのところで切り上げるとか、あんまり難しいのは何らかの方法で答えるとかすることで、質問と回答のラリーが続くようなことは避けるとしても大変いいことだな、私もしたいと思っています。あと、確認の意味で、出欠はどうやってとるのでしょいうか。これまでの判子押すのではなくて、どういうふうになりますか。
(事務局)	ありがとうございます。3点ほどいただいてありがとうございます。まず、ポータルサイトのところでレスポンスが早くなって良いついていうところでありありがとうございます。私どもも、そのような形で進めていきたいと思っていますところでございます。また、講師への質問につきましても、取り組んでいきたいというふうに考えてございます。ただ、先生方もお忙しいので、すぐに返ってくるとかはなかなか難しい状況もあろうかと思っておりますので、ここにつきましては講師の先生方とご相談をさせていただきながら、どのような形で質問にお答えいただけるかというところを整理していきたいなと思っていますところでございます。次に、出欠のご質問でございます。出欠につきましては基本的には携帯やスマートフォン等でとる形にしたいと考えてございますが、これから業者選定を行いまして、どういう形でできるかというのを提案してもらいような形になってまいりますので、イメージ的には、スマートフォン等で出欠をとるといようなところを考えているところでございます。

(委員)	わかりました。ありがとうございます。
(委員)	ちょっと聞き逃してしまったかもしれませんが、導入後については、申し込みは電子申請のみということになるという理解でよろしいのでしょうか。
(事務局)	基本的にはその形で進めたいと考えておりますが、例えば 90 歳以上の高齢の方で、どうしてもはがきでというお話があれば、個別に対応させていただきたいなと思っているところでございます。
(委員)	ありがとうございます。DX を推進されるのはすごく理想的なことではあると思いますが、やっぱりまだついていけない方もいらっしゃるかなと思いますので、フォローいただければと思います。
(副議長)	他にございませんか。
(委員)	非常に良い試みだと思って聞いておりました。利便性の向上とデジタルデバイドの解消につなげるということですけど、むしろデジタルデバイドを加速させるのではないかといった心配があります。基本的に、そういうスマホやパソコン、タブレットなどで、インターネットに繋がるということが、この利便性を享受できるということになるので、現段階で区民の方がどのぐらい対応できるのかというところと、或いは、貸し出しとかそういうことで考えてらっしゃるのか、そこら辺のところのバランスというかちょっと心配になっておりまして、その辺はどういうふうにお考えかをお聞かせいただきたいと思います。
(事務局)	ありがとうございます。区民にどれぐらい対応ができるのかというところでございますけれども、区として何%の方ができるのかできないのかっていう情報をもっているわけではないので、イメージ的なお話になってしまいますけれども、デジタル化を図りまして、最初のころは、なかなか難しく紙ベースでの対応っていう方も中にはいらっしゃるかなと思っております。数年後に 100%になれるような目標でやっていきたいなと考えているところでございます。現在どれぐらいの見込みがあるというところでお答えできないところがなかなか恐縮ですけれども、できる限り区民の皆様寄り添った形で対応させていただいて、デジタル化を図っていきたいと考えているところでございます。
(委員)	例えば、今参加されている方にリサーチするとか、やられる予定かもしれないですけれども、そこら辺でもうちょっと様子を見ながら、とてもいいことだと思いますので、マイナス面があまり強調されないようにと思い

	ます。
(委員)	補足ですけど、実は今年度から、高齢者のスマートフォン講座ってのはかなり力を入れて始めています。この下の階も高齢者の施設になっていますけれども、下でも多分頻繁にやっていると思いますので、来年度から予算がどうなっているか私ども部門じゃないのでわかりませんが、引き続きそういう高齢者向けの講座があるとすれば、そういったところとも連動しながらできない方をそちらに案内するとか、そういったようなやり方で、少し重層的に使えない方への支援はやっていかなくちゃいけないかなと思ってございます。
(委員)	使えない方とお持ちでない方っていう場合もありますよね。そこも心配なところで、そういった機械を持ってない、持っているがガラケーだけみたいな方も結構いっぱいいますので、そこら辺もご検討いただければと思います。
(事務局)	ありがとうございます。
(委員)	こういうところでやっているスマートフォンの講座って、大体LINEで送れますかとか、メール送れますかとか、写真を取ってそれをお孫さんに送れますかとか意外とそういう感じじゃないかなと思いますね。デジタル化を進めていくにあたり、もうちょっとステップを上げないと、なかなか興味を持ってくれる方、若い方はいいですが、小学生とかスマートフォンの使い方に長けているので、それは構わないですけど、門戸を広げて、私でもなかなかこれできますかって言われたらできないですよ。講座を受けたいけど、これできないって人はどうしたらいいのかなということもありますよね。スマートフォン講座に通って、仕方を一通り教えてくれるのかって、教えられても1回ではなかなかできないですよ。それを持続的に何回もやって、コースを組んで興味を持ってもらって、なるべく多くの区民に参加してもらおうっていうステップを踏んでいかないと、スマートフォンの講座やっているところに参加すればというのは、ちょっと無理があるかなとは思っています。
(委員)	参考までにとのお話したので、すべて下につなげるってわけではなく、そういったところもありますので、連携できるところは連携していければと思います。
(事務局)	例えば、入学式とか終わった後で時間をとってご説明をさせていただくとか、なかなかわかりづらいっていう方については、別にオープン講座みたいな形で授業を受けたりとかということも検討できると思いますので、いただいたご意見を考えさせていただきたいなと思ってございます。

(委員)	一人一人理解の度合いが違うし、何人かで講師の方が説明して、10 人いたら 10 人それぞれ理解の度合いって違うと思いますね。他の委員からお話があったように、コースを設けて、初級・中級・上級とかに分けてスマートフォンの使い方を教えていかないと、もうあと 2 年後には、サイト利用を開始しますよね、ということです。
(委員)	今、皆さんのやりとりも聞いた上での意見ですが、スマートフォンを使いこなすためのレベルアップの講習も世の中にいっぱいありますが、全体を底上げするのってものすごく大変なことですよね。大体脱落者が出ちゃって、それなりに使える人しか残らないっていう状況になっちゃいますね。私が考えるには、グリーンカレッジに入りたいと思う人は、「ポータルサイトを使います、スマートフォンを持ってください。そして、このポータルサイトを使えるようになってください。そうでないと、グリーンカレッジこの先やっていくことできませんよ」くらいの制限というか、そういうふうにしていいと思います。ただし、使うにあたって、最初スイッチを入れるところぐらいは誰でもできるけれども、次こうやってパスワードを入れて開いて、次にあなたの登録ナンバーを入れてこうしてと、グリーンカレッジのポータルサイトに直結した使い方を教える。それだけやればいいと思いますね。それをやっていく過程で、こういうこともできるのかって、だんだん広がりや深みが増える人もいれば、全然そういうのがない人もいるけど、少なくともグリーンカレッジのポータルサイトさえ、いじればもうそれでよしとした、そのぐらいの割り切りが必要だなと思います。
(事務局)	ありがとうございます。区民の方全体の底上げっていうのは、なかなか難しいと思いますので、今おっしゃっていただいたように、我々でできることとすると、グリーンカレッジを受講していただく方に、DX の環境を使っただいて、使い方を教えられるような時間を設けさせていただいて、なかなか難しい方については丁寧にやらせていただきたいなと考えているところでございます。
(副議長)	よろしいでしょうか。他にございませんか。それでは続きまして、資料 4 のご説明をお願いします。
(事務局)	それでは、続きまして資料 4 をご覧いただきたいと思います。令和 7 年度板橋グリーンカレッジ受講生募集についてのご説明でございます。左側でございます。こちらにつきましては、今年度の運営方法で、右側につきましては令和 7 年度の運営方法でございます。変更点といたしまして、1 つ目は、2 年生も新カリキュラムに移行いたしまして、科目選択制での実施という形になります。あわせまして、定員を 240 人から 400 人に増員を図る予定でございます。2 つ目でございます。聴講生の受講についてです。現在すでに通

	われていらっしゃる方や聴講生の方から、新しくなった1年生のカリキュラムにつきまして、新しく受け直しをしたいというお声を多数いただいているところでございます。すでにご卒業された方でも、新カリキュラムを学び直すことができるように変更したいと考えているところでございます。現行では、1年生は新規の方のみ対象で、聴講生は、2年生で空きがあるコースのみ受け入れているという形になっておりましたけれども、1年生でも新規に入学される方を優先いたしまして、枠に空きがある場合のみ入ることができるような、そういったような形にしていきたいと考えているところでございます。大学院につきましては、まだ移行期間でございまして、令和8年度に新しくリニューアルするという予定になってございます。募集について、来年の1月18日の広報いたばしに掲載する予定でございまして、その他、区ホームページ等で掲載を開始する予定でございます。雑駁でございますけれども、資料の説明は以上でございます。
(副議長)	資料4にご質問、ご意見ございませんか。
(委員)	ありがとうございます。質問ですけれども、募集についての広報に関してですが、広報いたばしの掲載っていうのと、区ホームページ掲載等っていうふうに記載いただいておりますが、その他に何か周知手段でご検討されているのかっていうのを伺いできたらなと思います。資料1のほうで、グリーンカレッジ公開講座が、すごい周知方法が様々な媒体を使われていたので、そういった多様な媒体を使われるのかをお伺いしたいなということで聞かせていただきました。
(事務局)	ありがとうございます。まず、広報いたばしはベースとして毎年やっております、区のホームページでも募集をします。あとは、地域センターが18ヶ所ありますが、チラシやポスターを掲示させていただきます。また、区内の掲示板でポスターを掲示するなど、広く周知を展開していきます。
(委員)	ありがとうございます。
(副議長)	他にご質問、ご意見ございませんか。無いようでしたら、続いて資料5のご説明をお願いいたします。
(事務局)	それでは、資料5のご説明をさせていただきたいと思います。令和7年度板橋グリーンカレッジ講義概要(前期)についてです。まず、1年生から説明させていただきたいと思います。1ページから3ページにかけてご覧いただきたいと存じます。受講生は、前期は11科目のうち9科目を、後期は12科目のうち9科目を選択していただきまして、年間18科目を実行していただく形となっております。前回の協議会でご説明させていただきましたカリキ

	ュラム案をもとに講義を組んでいるところでございます。今年度人気の高かった科目を引き続き取り入れているような形になってございます。講義内容につきましては、様々な受講ニーズにこたえられるよう、幅広い内容で、基礎的な知識を学んでいただくよう、カリキュラムの方を組んでございます。続きまして、2年生につきましてご説明をさせていただきます。4ページから6ページにかけまして、受講生周知のスケジュールの関係で、皆様に事前承認をいただいたところではございますけれども、改めて本日ご紹介をさせていただきますたいと存じます。2年生につきましては、各科目は3回連続の講義となっております。受講生は前期・後期ごとに9科目から3科目を選択していただきまして受講していただく形になります。講義内容につきましては、1年生で実施した科目で、人気の高かった科目を中心に組んでいるような状況でございまして、1年生でご登壇をいただいた講師の先生方に、引き続きご依頼をさせていただいているところでございます。2年生では、より応用的な内容を学んでいただくようなカリキュラムを組んでいるところでございます。続きまして、大学院の説明のほうをさせていただきますたいと思います。 7ページ目にお進みいただきたいと存じます。文化文学コースでございします。「遺跡から日本の古代を探る」をテーマに、日本列島で栄えた古代文化につきまして、フィールドワーク等を交えた講義をしていただく予定でございします。続きまして、8ページをご覧いただきたいと存じます。社会生活コースは、「わが国の食を取り巻く環境」をテーマに、世界の中の日本の食料事情について学び、自分ごとととらえて持続可能な食料自給について考えていただくような講義を行っていただく予定でございします。最後に、9ページ目でございします。健康福祉コースでございします。「生涯発達心理学から考える人生100年時代」をテーマにいたしまして、運営協議会の委員でもいらっしゃいます先生にご講義をいただく予定でございします。雑駁でございしますけれども、説明は以上となります。
(副議長)	ありがとうございました。資料5についてご質問、ご意見ございしますか。
(委員)	資料の6ページのプログラミング、実際にパソコンとかタブレットを持ち込んで操作しながらやるという講座ですけれども、こういうパソコンなどを持ち込んでの講座というのはこれまでにやったことはありますか。
(事務局)	ありがとうございます。実は、ありません。今回初めてになると思います。先生の方から提案があつてこういう講座の内容になりまして、プログラミング自体、私も詳しくは不是ですけども、アプリケーションやインターネット環境でもってやらないとなかなか講義がしづらい部分があるのかなというところがあります。おそらく、今回こういう要件を引いてしまっている以上、受講生の数が少ないことも見込んでおりますので、ある程度レベルの高い層

(委員)	が来られるのではないかなと見込んでおります。 私もこれを読んで、理解できる人がどのぐらいいるかなと思ったところ、理解して講座の申し込みをする人って意外と少ないだろうと思います。少なくとも、かつ初級段階はもう済んでいる人だから、話題に出たように、落ちこぼれる人はいないだろうなと思っております。多分 10 人ぐらいだったら、先生 1 人とアシスタントがついていっていいと思います。人数が多いと大変ですね。私、板橋区の防災何とかが主催した、「災害のときのスマホの活用方法」という講座に出たことがあるのですが、全く雑多なレベルの人たちが出てきたものですから、知りたいことを知るまでいなくて、次どこを押したらいいですかという質問の都度、スタッフの人たちが来て説明をして、早く進んで欲しいなと思いながら私は座っていましたが、ほとんど進まないまま終わっちゃったっていう、そういう経験があるので、そういうふうにならないようにして欲しいなと思います。かなり足切りがなされると思うので、あとはひたすらうまくやっていただくのをお願いするだけだなと思います。 2 つ目で、大学院の方ですけれども、考古学コースでの大学院の講義の進め方等研究発表のあたりが、考古学っていうのはすでにもういろんな人がいろんな分析をしていろいろなレポートだとか、要するに検索サイトで幾らでも出てくる。そういう中でグループ研究する。何をどう研究するのだろう、研究といっても、新たに土を掘って中から何か出すなんてそんなのはできないし、出てきたものを見て、これはここにこういうのがあるから、これは紀元前何年の典型的なものということがわかって、すでに誰かがやったことのやり直ししかないですね。だから、研究っていうのは自分の意見や考察を加えて私はこう思います、みたいに持っていかなきゃいけないと思うので、その点で、考古学は題材としてどうとらえたらいいのか難しいなあと直感で思っています。次の、「食を取り巻く環境でフードロスを減らすために」は、非常にいい題材で取り組みやすいと思うし、3 つ目の「人生 100 年時代の心理的発達」は、私は選ばないかなと思います。私は、今大学院に通っており、来年もやりたいなと思っているので、来年選ぶとしたら、私は「食を取り巻く環境」になるなというのを、自分自身考えながら、それにしても考古学はどうやるのかという気がしておりますが、このあたりもここで回答いただく必要はないですけれども、私の考えが大学院の捉え方と違っていたら、ご指摘いただきたいということです。 (事務局) ありがとうございます。まず順番に行かせていただきますが、プログラミングの件について、こちらは先ほど申し上げた通り、同じ先生にまたご登壇いただくのですが、ここの網掛けに書いていることでかなり要件が狭まっていて、表現が難しかったかなということもありますけれども、正直何人申し込みいただくかっていうのは、これからわかるところでして、おそらくここで
-------------	---

ハードルを設けている以上、選択する人は少ないのではないかなと見込んでおります。ただ、申し込みがたくさん来るとも想定されて、今回科目選択制になりますので、締め切りした時点で何人かっていうところは、受講人数が割り出せますので、その時点で先生に情報提供させていただいて、これだけを見ず、どのように運用していくかというところでしっかり協議をしてまいりたいなと思っております。こちらの先生は、かなりたくさんニーズを教えている経験もあるので、多くの人数は慣れているかなとは思いますが、このオペレーションとかの話になると、進捗確認しながら、だけど早く進んで欲しいという人の中にいながらってということもあるので、難しい切り盛りが予想されると思いますが、先生と協議してなるべく不満なく、満足度の高い講義ができたかなと思っております。

2つ目ですね、考古学ですけども、今回の専門課程のコースで、資料にはお付けしてないですけども、ご登壇いただくのは大正大学の先生です。こちらの先生は実際学生さんをゼミとかで、全国いろいろな遺跡とかを巡って合宿をしているなど、かなり精力的にやっていらっしゃり、今回先生からの提案でフィールドワークを設けていただいて、国立博物館・上野公園に行くなどすごく前向きなご提案をいただいているところです。ただ、他の分野の学問と違って、考古学は私も詳しくはないですけども、明確な社会問題についての解決策をみんなで考えようとかっていう類のものではないかなと思っております。もともとある程度明らかになっている部分もあれば、ロマン的な部分もあるというところなので、すでにわかっていることをこうやるっていうわけではなくて、先生からのご提案もあるところかなと思っておりますが、どういう考えを持ったかとか、どういう考察で遺跡の管理、研究を進めていくかっていうところの実務的な話も踏まえて、自分自身もそういう発掘家みたいな、研究家になったつもりで、進めていくのではないかなとイメージはしておりますが、先生と共有しながら、学生さんの意識と齟齬のないように進めていけたかなと思っております。

最後に、健康福祉コースですけども、今実施している専門課程健康福祉コースで、発達障がいについて学習をしていただいています。別の先生にご登壇いただきましたが、この分野が大変幅広くて、健康福祉で取り入れたいという私たちの強い思いがあり、先生には幅広い年代層の生涯発達心理学というところで、ビー玉を交えた実験ですとか、認知症の方の行動分析とかいろいろされているところで、そういった実務の話とかを踏まえながらお話いただき、現在専門課程の健康福祉コースを受けている方に興味を持っていただきたいなと思うと同時に、他のコースの方にもぜひ受けていただきたいなと思っております。

(副議長)

ありがとうございました。他にございませんか。それでは、最後の資料6のご説明をお願いいたします。

(事務局)	資料6でございます。新たな板橋グリーンカレッジ大学院のカリキュラム案についてご説明をさせていただきたいと思ひます。大学院につきましては、移行期間といたしまして、令和7年度まで旧カリキュラムで実施をいたしまして、令和8年度から新しいカリキュラムで運営をしていく予定となっております。参考に移行スケジュールをご覧ください。現行のカリキュラムでございます。こちらにつきましては、文化文学・社会生活・健康福祉の3コース、各30名を定員として運営しているところでございます。年間13回の講義で、セミナー方式を導入した方を行っております。グループ学習、または個人での研究活動、施設見学等のフィールドワークの方もございまして、最終回には研究内容の成果を発表いただくという形になってございます。 現行の大学院の課題といたしまして、資料に記載の通り3つございます。 (1) 構成員のところで、大学院修了者によるリピーターの方が多く、大学校卒業者からの進学割合が低い。定員も毎年割れているというような状況でございます。魅力あるカリキュラムを提案し、新規進学者を増やしていく必要があると考えているところでございます。(2) 高齢者向けの講義内容ということで、令和6年度から多世代化を進めておりまして、大学院につきましては高齢者向けの旧カリキュラムで運営をしております。移行期間が終了する令和8年度からは、多世代向けのカリキュラムが求められるところでございます。(3) 大学院終了後に、学びの循環に結びついていないといったところがございます。大学院修了者が1年間学んだ、学んでいただいた内容を対外的に活かしていくため、受講生への意識づけが求められているというふうに考えているところでございます。これらの課題を踏まえまして、カリキュラムの見直しのほうを行ってまいります。 (1) 定員の見直しでございまして、30名から25名に変更いたしまして、講師の先生が受講生一人一人に寄り添ったきめ細かな対応をしやすい環境にしたいというふうに考えているところでございます。(2) コースの増設で、大学校の科目を増やしたことに伴いまして、コースも3コースから4コースに増設したいと考えてございます。また、分野を固定せずに、大学校で学ぶ科目に合わせて、コース内容を毎年編成していきたいと考えてございます。(3) 学習内容の見直しで、意見交換や発表会などの時間の方を増やし、学習の成果を発信する機会を設けていきたいと考えてございます。講義の理解を深めていきたいと考えているところでございます。また、受講生自身で、大学院で学んだ研究内容の活用について考える時間を設けていきたいと考えているところでございます。具体的なカリキュラム案につきましては3枚目の別紙をご覧くださいと存じます。令和7年度までは、現行のカリキュラムで、令和8年度以降は、新しいカリキュラムでございます。カリキュラムの変更といたしまして、定員の見直しを行い、定員を30名から25名に変更いたします。②コースの増設というところで、3コースから4コースに変更いたします。また、文化文学・社会生活・健康福祉の枠組みを撤廃いたします。③各内容の見直しとして、講義を受け身で聞くのではなく、各講義に全体で意見
--------------	--

	交換の時間を取り入れていきたいと考えているところでございます。中間発表の時間を設けることや、発表会の時間を増やし2回に分けて実施するなど、学習の成果を発信する機会を増やしていきたいと考えているところでございます。また、研究内容の活用につきまして、講義する時間を設けたいと考えております。受講生ご自身で、学習内容を対外的に活用できる方法を考え、最終回の発表会までに、研究内容の活用方法をまとめ、発表を行っていただきたいと思っております。新たなカリキュラムの内容につきましては、以上のような、構想案としてお示しをさせていただきたいと思っております。説明が長くなりましたが、以上でございます。忌憚ないご意見をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。
(副議長)	ご質問、ご意見ございますか。
(委員)	質問ですけれども、カリキュラムの方ですが、25名の4コースを想定されていて、定員が100名増えるってことですが、90名でも定員がなかなか満たないってことを記載されていらっしゃったので、ここはコース数が増えることで増員が見込めることを想定されているのかっていうのをお伺いできたらなと思います。
(事務局)	現在は定員を30名でといったところで、なかなか集まらないコースもございましたので、魅力あるコースを増やしまして、25名の定員で4コース、計100名の定員をなんとか集めたいと考えております。
(委員)	ありがとうございます。
(副議長)	他にございますか。もしなければ、これで本日の協議会は終了させていただきます。それでは、協議事項につきまして、承認させていただきたいと思っておりますけれども、これでよろしいでしょうか。
(副議長)	ありがとうございます。それでは、本日の協議が全部終わりました。最後に、不慣れで大変ご迷惑かけまして、大変申し訳ございませんでした。ありがとうございます。それでは、事務局側にお返しします。
(委員)	自由討議といいますか、私の意見をちょっと言わせていただきますが、私は今、大学院に在学しており、大学校を2年受講し、その後聴講生でもう1年受講して、今は4年目を大学院生として通っております。大学校の講義は今年出ていなかったもので、今年11月に事務局の方にお話して特別に入れてもらって後ろのほうで受講してきました。その時の私の印象としては、内容は今までと同じであろうと、雰囲気は全体的に変わらないなと思いました。受講した講義は、3回ある講義で、その1回目に行ってきました。私の経験か

	らして、1回目は出席率が高いので、それが2回目、3回目になるとどんどん下がっていきますね。だから出席率は高かったですが、それは1回目だからという感じはあると思います。全般的に、一生懸命聞いている人が多くて、居眠りしている人は少なかったです。だから、概ねうまくいっているのかなと思います。講師の方のお話もうまかったので、特段の問題を感じたことはありません。ただ、私の印象として、座席が以前同様グループを組んで、座席を毎回まわしていましたが、それをやめるか、または後ろの方に割り振られたグループであっても、前の方に空席があったら席の移動を黙認していただきたいなと思います。理由は、後ろの方はやっぱりみんなリラックスしちゃいますね。そうすると、一生懸命聞きたいと思っても近くで、ぼそぼそ話している人や、居眠りも何人か出てきます。そうすると集中できないですよ。私自身も何度かやったことがあります。前の方の空いているところに座って先生の話聞きます。事務局の方はもう先刻承知で、お目こぼしをしていただいたのかもしれませんが。そういう私みたいな図々しいものが、よく聞こえてよく見える前のほうに動くのではなく、どなたも前の方席空いていますからどうぞ、みたいな感じで誘導していただいたほうがいいじゃないかな。グループを組んでいる理由は、グループ討議がたまにあるからですよ。そういうときは元のグループのところに帰るとしても、大体のケースは、グループ討議がなくて、一方的に先生の話聞くだけなので。前の方への移動を黙認、それを公に認めて欲しいというのが1つ目です。 それから2つ目、最初のほうで、90分の中で、途中で5分程度の休みを入れて欲しいという要望がありましたけども、私はいらないと思います。もう90分間集中してやればすぐ終わっちゃいますし、先生たちもいろいろ話してくださいますが、積み残しというか時間がなくなってしまうケースが多いですよ。だから最後の方は、もう駆け足でここはもう読んでおいてくださいとかね。もう95分くらいになって、質問を受けられないよというそんな状況ですから、そこで途中で5分休憩を入れて、みんなが揃うまでを考えてやっぱり10分ぐらいロスになりますので、私は途中の休憩はいらないと思います。私の意見は以上です。
(事務局)	ありがとうございます。まず1点目の方からでございます。大学校を見ていただいたところで、内容や雰囲気あまり変わってなかったかなというようなお話をいただきました。見ていただいたのは、大学校の1年生のところなのか、専門課程のところなのかどちらでしょうか。
(委員)	11月6日の社会生活コースです。
(事務局)	ありがとうございます。そちらは専門課程でございます。まだ昔のバージョンといいますか、移行期間のため旧カリキュラムで実施しているところでございますので、ちょっと変化がなかったのかなというふうに思っている

	ところでございます。新しい1年生のところにつきましては、多世代化を図っておりますので、これまでの事業とはまた違った雰囲気 of 講義スタイルになっているかなと思います。
(委員)	そうでしたら、1年生も行ってみたいと思います。
(事務局)	もしよければ、ちょっと事務局の方に言っていただいてというところで、お願いをできればと思ってございます。また、出席率がよかったというようなところで、前向きな捉え方をしていただいて本当にありがとうございます。講師の先生も良かったというようなお話だったので、こちらの方につきましてもありがたいなというふうに思っております。座席のグループのご指摘もいただきましたので、検討させていただいて、賑やかにやりたいという方と、一生懸命聞きたいという方と様々な方いらっしゃると思いますので、柔軟に対応のほうさせていただきたいなというふうに思っております。 また、2点目でございます。先ほど他の委員の方からは、途中お休みが欲しいという意見でございましたけども、お休みが必要ないというようなご意見いただいたところでございます。90分間の講義という形で、先生方の進行状況等もあると思いますので、休みがとれないときもあると思いますし、ちょっと間延びしてしまうようなところだと、お休み入れたほうがいいのかもあると思いますので、先生方と相談をさせていただきながら、柔軟に対応させていただきたいなと思っております。
(委員)	よろしくお願いします。
(副議長)	よろしいでしょうか。それでは、事務局のほうにお返しします。
(事務局)	副議長、本当にありがとうございました。そして、皆様本当にお疲れ様でございました。皆様から様々な意見いただきました。いただいた意見を、今後の板橋グリーンカレッジの運営の方に、ぜひ活かしていきたいなと思っております。 また、次第のところ、卒業式と入学式の日程を記載しております。すでにご通知のほう申し上げておりますけれども、卒業式につきましては令和7年3月21日(金)、14時30分から15時30分で実施いたします。入学式につきましては、令和7年4月11日(金)14時から14時30分で実施いたします。どちらも、成増アクトホールで実施する予定でございます。 次回の運営協議会については、来年度7月頃を予定しているところでございます。日程の調整をさせていただきまして、決まり次第、皆様にご通知を申し上げます。以上をもちまして、令和6年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会の方、閉会させていただきたいと思っております。誠にありがとうございました。